

様式1

大学等名	敬和学園大学
プログラム名	敬和学園大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

② 対象となる学部・学科名称

③ 修了要件

「コンピューターリテラシー」2単位および「データサイエンス入門」2単位の4単位を取得すること。

「敬和学園大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」(申請中)
紹介ホームページ <https://www.keiwa-c.ac.jp/academic/datascience/>必要最低科目数・単位数 科目 単位 履修必須の有無 令和10年度以降に履修必須とする計画、又は未定

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
データサイエンス入門	2	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					

⑤「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
データサイエンス入門	2	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					
コンピューターリテラシー	2	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					

⑥「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
データサイエンス入門	2	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					
コンピューターリテラシー	2	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						

⑦「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
データサイエンス入門	2	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					
コンピューターリテラシー	2	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
データサイエンス入門	2	○	○	○	○						
コンピューターリテラシー	2	○		○							

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
AIリテラシー	4-1統計および数理基礎		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	<p>1-1 <社会で起きている変化>【データサイエンス入門第2回】 社会で起きている変化を知り、数理・データサイエンス・AIを学ぶことの意義を理解し、AIを活用した新しいビジネス/サービスを知る ・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化 ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会 ・人間の知的活動とAIの関係性</p> <p>1-6 <データ・AI利活用の最新動向>【データサイエンス入門第7回】 データ・AI利活用における最新動向(ビジネスモデル、テクノロジー)を知る ・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、強化学習、転移学習、生成AIなど) ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)</p>
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	<p>1-2 <社会で活用されているデータ>【コンピューターリテラシー第14回】【データサイエンス入門第3回】 どんなデータが集められ、どう活用されているかを知る ・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど ・1次データ、2次データ、データのメタ化 ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)</p> <p>1-3 <データ・AIの活用領域>【コンピューターリテラシー第14回】【データサイエンス入門第4回】 さまざまな領域でデータ・AIが活用されていることを知る ・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など</p>
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	<p>1-4 <データ・AI利活用のための技術>【データサイエンス入門第5回】 データ・AIを活用するために使われている技術の概要を知る ・データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化、モデル化とシミュレーション・データ同化など ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化など ・非構造化データ処理: 言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ること出来ないこと、AIとビッグデータ【コンピューターリテラシー第15回】</p> <p>1-5 <データ・AI利活用の現場>【データサイエンス入門第6回】 データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているかを知る ・データサイエンスのサイクル(課題抽出、データの取得・管理・加工、データ解析と推論、課題解決に向けた提案) ・教育、芸術、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介</p>

(4)活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<データ・AIを扱う上での留意事項>【データサイエンス入門第14回】 データ・AIを利活用する上で知っておくべきこと ・倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護【コンピューターリテラシー第14回】 ・AIサービスの責任論 ・生成AIの留意事項(ハラシネーションによる誤情報の生成、偽情報や有害コンテンツの生成・氾濫など)
	3-2	<データを守る上での留意事項>【データサイエンス入門第15回】 ・情報セキュリティの要素(機密性、完全性、可用性) ・匿名加工情報、暗号化と復号、ユーザ認証と、パスワード、アクセス制御、悪意ある情報搾取 ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介およびサイバーセキュリティ【コンピューターリテラシー第14回】
(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<データを読む>【データサイエンス入門第8・9回】 データを適切に読み解く力を養う ・データの種類(量的の変数、質的の変数) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値=最頻値でないことが多い) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値 ・相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡)
	2-2	<データを説明する>【データサイエンス入門第10・11回】 データを適切に説明する力を養う ・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ、箱ひげ図) ・データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト) ・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など) ・相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え方(スライド作成、プレゼンテーションなど)【コンピューターリテラシー第10～13回】
	2-3	<データを扱う>【データサイエンス入門第12・13回】 データを扱うための力を養う ・データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法) ・データの集計(和、平均) ・データの並び替え、ランキング

(1) プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- ・AIの正しい知識を持ち、社会における変化を柔軟に受け入れることができる。
- ・基礎的な統計知識を身につけ、「データを正しく読む力」と「データを正確に伝える力」を身につけることができる。
- ・データ・AIを活用するうえで求められるモラルや倫理について理解し、個人のデータを守るうえで注意すべきことが理解できる。

樣式2

敬和学園大学

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和6 年度(和暦)

②大学等全体の男女別学生数

男性 370 人 女性 260 人 (合計 630 人)

(令和6年5月1日時点)

③履修者・修了者の実績

様式3

大学等名 敬和学園大学

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 28 人 (非常勤) 53 人

② プログラムの授業を教えている教員数 2 人

③ プログラムの運営責任者

(責任者名) 伊藤学

(役職名) 国際文化学科 教授

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

敬和学園大学ネットワーク委員会

(責任者名) 伊藤学

(役職名) ネットワーク委員長

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

敬和学園大学ネットワーク委員会規程(2025.2.26更新)

⑥ 体制の目的

本体制は、敬和学園大学における情報系の教育及び学内運営に関する議論検討を行っている。ここでは、AI・データサイエンスに関する正しい知識を持ち、それを日常や仕事の場で使いこなすための基礎的なリテラシーを習得することを目標とした、「敬和学園大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」に関して、プログラム内容の立案・改善、プログラムの運営・普及、プログラムの自己点検・評価ならびに情報公開を担う組織として担当している。プログラムそのものを立案・改善・運営するほか、会議内に置かれた自己点検・評価部会で自己点検・評価を行う。

⑦ 具体的な構成員

<ネットワーク委員会>

委員長: 伊藤学(教授 人文学部 国際文化学科)
 委員: 一戸信哉(教授 人文学部 国際文化学科)
 委員: 加藤裕康(教授 人文学部 国際文化学科)
 委員: 船岡芳晴(課長 教務課)
 委員: 小端康弘(課長 広報入試課)
 委員: 鈴木麻由(課長 総務課)

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和6年度実績	18%	令和7年度予定	30%	令和8年度予定	50%
令和9年度予定	70%	令和10年度予定	90%	収容定員(名)	720

具体的な計画

本プログラムは、1年次から開講される「コンピューターリテラシー」と、2年次よりその上位講座として設置された「データサイエンス入門」の2科目の単位取得を目的とする。「コンピューターリテラシー」では、学内の情報ネットワークの操作方法、コンピューターの基礎知識、Officeの使い方、メール送受信のマナー、情報セキュリティについて、全学科1年次の必修科目として実施。「データサイエンス入門」は、「教養としてのデータサイエンス 改訂第2版」北川源四郎／竹村彰通・編 内田誠一他・著 2024/12/10をメインの教科書として用いる他、コンソーシアムで提唱される資料も利用し、全国の大学と同等レベルの教育内容にする。

入学後に実施されるガイダンスにて、本プログラムのシラバスを周知し、スムーズに導入・履修されるような体制を構築している。

具体的には、数理・データサイエンス・AI教育プログラムの履修要件と関連する科目の概要や、履修することで求める人物像などの説明を行う。また、本プログラムを履修するための動機づけとして、就職活動で使用できるよう、プログラムの修了者には履修証明書を発行する。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

数理・データサイエンス・AI教育プログラムは、全学科共通の共通基礎科目として位置づけられ、本学の学生は、全員受講可能である。

今後の活動として、全学FD・SD研修会において「敬和学園大学 数理・データサイエンス・AI教育カリキュラム(リテラシーレベル)の概要と社会ニーズ、本学における取り組みについて」などの説明会を行い、全教職員に数理・データサイエンス・AI教育の必要性と重要性の理解を深めもらう機会を持つ。教学担当・学科長・ネットワーク委員会など、担当教員および関連部署(教務課・入試広報課・総務課)の事務職員からなる全学的な会議を行い、学修状況の調査、本プログラムへの提言、学内外にむけた広報等を行う。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

本学は、人文学部として国際文化学科・英語文化コミュニケーション学科・共生社会学会を設置しているため、このプログラムは誰でも受講可能な共通基礎科目として運用している。

さらに、プログラム認定の履修要件などを入学時ガイダンス及びキャンパスガイドなど、多くの手法を用い周知していく。

また、授業科目のシラバスは、文部科学省“数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)”に即した授業内容で組み立てている。

「敬和学園大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」(申請中)
紹介ホームページ <https://www.keiwa-c.ac.jp/academic/datascience/>

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

開講初年度となった令和6年度は、学内の情報教育演習室(PC教室)で授業を行っているが、PC台数に制限がある。今後は履修対象学年が増えていくこともあり、より多くの学生が履修できるように、普通教室での開講や開講コマの複数設置を検討していく。

学内設備面では、図書館のPCの自由開放のほかに、ノートPC貸出しを行っており、自主学習に利用できるようにしている。併せて、全学内にWifi環境を構築しており、学生持ち込みのデバイスによる接続も可能(BYOD)としている。

また、担当教員のオフィスアワーを周知し、指導・質問を受ける体制がある。担当教員以外にも、学年担任が適宜面談を行っている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

授業前後に時間を設けて授業担当教員が質問等を受付けるほかに、ポータルサイト GoogleClassroomを用いたサブ教材の提供やQ&A、またはMeet、Zoomなどをフルに活用し、履修者は学外からも授業担当教員に質問することができ、担当教員から該当学生へのフィードバックも可能となっている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

敬和学園大学自己点検・評価委員会

(責任者名) 金山愛子

(役職名) 自己点検・評価委員長 学長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	<p>「コンピューターリテラシー」は、PCに関わる一般常識の講座であるため、1年次から履修可能としており、共通基礎科目の必修科目となっている。また、不合格となった場合でも再履修が可能である。「データサイエンス入門」に関しては、2年次より受講可能な科目であり、「コンピューターリテラシー」の上位講座として実施する。本学における「敬和学園大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」は、令和6年度より行っているため、「データサイエンス入門」は令和7年度が初めての受講者となる。これら、学生の履修状況や習得状況は、当学のポータルサイトである“Universal Passport”にて確認できるようになっている。</p> <p>令和6年度の「コンピューターリテラシー」/「データサイエンス入門」の履修状況は次のとおりである。</p> <p>「コンピューターリテラシー」: 履修者126名、単位認定者116名、合格率92.1%</p> <p>「データサイエンス入門」: (令和7年度より開講中)</p>
プログラムの履修・修得状況	<p>「コンピューターリテラシー」</p> <p>本プログラムの学修成果は、当学のポータルサイトである“Universal Passport”にて確認できるようになっている。成績評価のつけ方は、以下のとおりである。</p> <p>全体の講義回数の70%以上の出席(11回以上)が単位取得の条件となり、あわせて受講姿勢が10点となる。また、課題点は、ビジネスメール、ビジネス文書、表計算などWordやExcelを用いての課題提出が3回あり、それぞれ10点。グループワークとして、それぞれの課題に対する検討とPowerPointでの資料作成と発表をについて60点を付与する。これらの点数が最大点となるため、ここから減点しその合計が評価となる。</p> <p>「データサイエンス入門」</p> <p>「コンピューターリテラシー」同様に、学修成果は、当学のポータルサイトである“Universal Passport”にて確認できるようになっている。成績評価のつけ方は、以下のとおりである。</p> <p>全体の講義回数の70%以上の出席(11回以上)が単位取得の条件となり、あわせて受講姿勢が10点となる。各章ごとに理解度を確認するための小テストを3回実施し、それぞれ30点を最大点として付与する。本講義のカリキュラムは、”数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム～データ思考の涵養～(2024年2月22日改訂)”に準じて作成されている。</p> <p>上記2科目の取得にて敬和学園大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)を認定する。</p>
学修成果	<p>講義終了後に受講者を対象に授業評価アンケートを実施し(令和6年度はコンピューターリテラシーのみ)、当学のポータルサイトである“Universal Passport”にて確認できるようになっている。</p> <p>授業評価アンケートによる理解度は、良好であり、小テストおよびグループワークなど座学だけではない内容についていることが評価されている。</p> <p>「この授業で教わったことを理解し、身についたと思いますか？」の質問では、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合は、クラスによるが6割～7割となっており、どちらともいえないまで入れると8割～9割となっている。</p> <p>また、各回の確認テストや課題によって理解度を深めることができたと考えている。</p> <p>令和7年度から始まる「データサイエンス入門」においても同様のアンケートを実施する予定である。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	“学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度”については、令和7年度にて最初の修了者を輩出するため、この項目については翌年度に記載する。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	前記したように、令和7年度にて最初の修了者を輩出するため、この項目については現在の予定という形で記載する。全学的な履修者数、履修率については、前期と後期に分けて集計する予定である。またその結果については、敬和学園大学 数理・データサイエンス・AIプログラム(リテラシーレベル)を統括するネットワーク委員会にて検証を行い、現状での問題点や改善策の検討を行っていく。最大の目標は、本プログラムの修了者を一人でも多く輩出することにある。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	前記したように、令和7年度にて最初の修了者を輩出し、その卒業年度は令和9年度以降となるため、現段階では評価できていない。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	現状では、産業界から意見を収集する機会や仕組みはない。しかしながら、本プログラム修了者の意見を収集できるようなアンケートフォームを用意し、修了者に記載を促す予定である。さらには、修了者は社内人となるため、勤務先の企業からヒアリングを行ってもらい、前記したアンケートフォームから情報を収集する予定である。これらの情報を基に、敬和学園大学としてふさわしいカリキュラムを独自に模索していく。 また、本プログラムは、産業界での実務経験が豊富な教員が担当したり、これらの教員からも現業に近いプログラム内容や手法についての講義運用ができる。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	「コンピュータリテラシー」 1年次における講義であるため、インターネットとコンピュータを大学在学中に活用するためのテクニックや、就職時に必要になる実用的な利用法を学ぶことを大目標としている。履修者スキルを見きわめながら、ビジネスメール、ビジネス文書、プレゼンテーションなど、1人1台PCを用いて、電子ファイルによる小テストを通じてレベルを上げていく。また、グループワークを取りながら課題発表に向けた作業に取り組んでもらう。さらに、著作権、セキュリティ、AIによる社会変化やビッグデータの活用事例(数理・データサイエンス・AIの学習における“リテラシーレベル”の項目に該当)について解説を行う。 「データサイエンス入門」 2年次より受講可能となる本講義は、前期「コンピュータリテラシー」の上位科目となる。“数理・データサイエンス・AI教育プログラム”を活用することを通じ、実データや実課題を用いた演習など、社会での実例を題材に、現実の課題と適切な活用法を学ぶことをカリキュラムに取り入れる。本講義は、“数理・データサイエンス・AI”的リテラシーレベルに該当し、「分かりやすさ」や「社会での活用」、「幅広い視野」を重視した教育を実施する。具体的には、導入:社会におけるデータ・AI利活用、基礎:データリテラシー、心得:データ・AI利活用における留意事項の範囲を網羅し、講義やPCでの演習を行う。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	本プログラムの内容・水準を維持・向上するために、敬和学園大学では、AIの分野となる応用情報工学を専攻した教員を配置している。さらに、会社員としての実務経験もあることから、学問的知見の他に実社会での運用例を数多く講義することができる。理論と現業の両サイドからの講義を行うことにより、学生にとって肌身の近い内容(マーケティング・物流・医療・農業など)での講義に心がけている。さらには、修了者からの評価アンケートを活用して、修正を加えることで「分かりやすい」を追求していく予定である。 加えて、生成AIなど技術発展の早い分野であることから、日経コンピュータや人工知能学会などの雑誌からも、情報を提供していく予定である。

科目ナンバリング	GD001	科目名	コンピュータリテラシー
担当者	伊藤 学		
年 次	1	単位数	2.0
授業形態	講義及び演習	開講期	2024 年度 前期
講義の到達目標およびテーマ			
インターネットとコンピュータを大学在学中に活用するための、実用的な利用法を学ぶ。			
講義の概要			
履修者がすでに持っているスキルを見きわめながら、すべての授業で活用可能な実践的な能力をインターネット・コンピュータ一運用能力を身につけることを目指します。講義後半はチームに分かれオンラインでコミュニケーションを取りながら課題発表に向けた作業に取り組んでもらいます。また、終盤では AI による社会変化やビックデータの活用事例(数理・データサイエンス・AI の学習における“リテラシーレベル”の項目に該当)について学習します。			
講義計画			
1. 学内システムの利用方法 2. メールの送受信とマナー 3. 情報デザイン基礎(1) 4. 情報デザイン基礎(2) 5. 情報検索の利用 6. 著作権などインターネット利用上の諸問題 7. ソーシャルメディアにおける情報の受発信(1) 8. ソーシャルメディアにおける情報の受発信(2) 9. ドキュメントアプリケーションの利用(1) 10. プrezentation(1) 11. プrezentation(2) 12. プrezentation(3) 13. プrezentation(4) 14. ビックデータを使った最新の運用事例 15. AI がもたらした社会の変化			
ディプロマポリシーと当該科目の関連			
①人権と人間の尊厳の原理を尊重する姿勢と真理を希求する姿勢を身につけている。(基礎知識) ②グローバルな視点をもち、分析的・批判的に考えて判断し、明瞭かつ効果的に表現することができる。(専門知識、論理的思考、批判的思考) ③対話とコミュニケーションを重んじ、隣人に仕えることができる。(コミュニケーション能力) ④高い倫理的基準を持ち、地域社会に貢献することができる。(社会との関係)			
教科書			
特になし。			
参考図書			

適宜指示する。

成績評価の方法・基準および課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

- ・講義中に実施する小レポートの提出【評価割合 30%】
- ・学期末に実施するプレゼンテーション(グループワーク)【評価割合 60%】
- ・その他授業の出席など【評価割合 10%】

理解困難箇所については、再度講義するほか、Google Classroom にてコメントを返す。

事前事後学習(予習・復習等)の具体的な内容およびそれに必要な時間

1. 実習課題をまとめて提出する

2. プrezentation の準備をする

講義中に完遂することが望ましいが、完了できない場合は課題とする。併せて、不明な部分については随時補完する。

小レポート:45 分程度

プレゼンテーション課題:120 分程度

その他

■受講者

・受講しなければならない学生は、事前のプレースメントテストの結果によって判定されます。

■classroom の利用

講義資料や課題などは Google Classroom を用いて案内します。講義開催中は常に注意を払うこと。

科目ナンバリング		科目名	データサイエンス入門
担当者	伊藤 学		
年 次	2	単位数	2.0
授業形態	講義および一部演習	開講期	2024 年度 前期

講義の到達目標およびテーマ

今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AI を日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けること。そして、学修した数理・データサイエンス・AI に関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができる、不安なく自らの意志で AI 等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになること。

講義の概要

本講義は、“数理・データサイエンス・AI”を活用することを通じ、実データや実課題を用いた演習など、社会での実例を題材に、現実の課題と適切な活用法を学ぶことをカリキュラムに取り入れる。本講義は、“数理・データサイエンス・AI 教育プログラム(リテラシーレベル)”に該当し、「分かりやすさ」や「社会での活用」、「幅広い視野」を重視した教育を実施する。

具体的には、導入：社会におけるデータ・AI 利活用、基礎：データリテラシー、心得：データ・AI 利活用における留意事項の範囲を網羅し、講義や PC での演習を行う。

講義計画

1. ガイダンス “数理・データサイエンス・AI 教育プログラム(リテラシーレベル)”について
2. 社会で起きている変化
 - ・ビッグデータ、IoT、AI、生成 AI、ロボット
 - ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AI の非連続的進化
 - ・第 4 次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会
3. 社会で活用されているデータ
 - ・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど
 - ・1 次データ、2 次データ、データのメタ化
4. データ・AI の活用領域
 - ・データ・AI 活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)
 - ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど
5. データ・AI 利活用のための技術
 - ・データ解析：予測、グルーピング、パターン発見、最適化、モデル化とシミュレーション・データ同化など
 - ・データ可視化：複合グラフ、2 軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化など
6. データ・AI 利活用の現場
 - ・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)
7. データ・AI 利活用の最新動向
 - ・AI 最新技术の活用例(深層生成モデル、強化学習、転移学習、生成 AI など)
8. データを読む(1)
 - ・データの種類(量的変数、質的変数)
 - ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)
 - ・代表値の性質の違い(実社会では平均値 = 最頻値でないことが多い)
9. データを読む(2)

・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値

・相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡)

10. データを説明する(1)

・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ、箱ひげ図)

11. データを説明する(2)

・データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/B テスト)

12. データを扱う(1)

・データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法)

・データの集計(和、平均)

13. データを扱う(2)

・データの並び替え、ランキング

・データ解析ツール(スプレッドシート、BI ツール)

14. データ・AI を扱う上での留意事項

・倫理的・法的・社会的課題(ELSI:Ethical, Legal and Social Issues)

・個人情報保護、EU 一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト

・データ倫理:データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護

15. データを守る上での留意事項

・情報セキュリティの 3 要素(機密性、完全性、可用性)

・匿名加工情報、暗号化と復号、ユーザ認証と、パスワード、アクセス制御、悪意ある情報擰取

ディプロマポリシーと当該科目の関連

②グローバルな視点をもち、分析的・批判的に考えて判断し、明瞭かつ効果的に表現することができる。(専門知識、論理的思考、批判的思考)

③対話とコミュニケーションを重んじ、隣人に仕えることができる。(コミュニケーション能力)

④高い倫理的基準を持ち、地域社会に貢献することができる。(社会との関係)

教科書

講談社

教養としてのデータサイエンス 改訂第 2 版 (データサイエンス入門シリーズ)

ISBN-13 978-4065379394

参考図書

特になし

成績評価の方法・基準および課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

・理解度を確かめるため、3 回程度の小テストを実施

・その他、授業への出席など(70%以上)

理解困難箇所については、再度講義する

事前事後学習(予習・復習等)の具体的な内容およびそれに必要な時間

1. 講義で示された範囲について、教科書を読み返し復習すること(30分程度)

2. 小テスト合格のための復習時間(30分程度)

その他

- ・本講義のカリキュラムは、”数理・データサイエンス・AI 教育プログラム(リテラシーレベル)“のモデルカリキュラムに準じて作成されている。
- ・敬和学園大学は、数理・データサイエンス・AI 教育コンソーシアム北信越ブロックの加盟校に認定されている。

履修要項

授業

授業科目及びその単位数・卒業要件

サービスラーニング活動

外国語科目

履修登録

他大学との単位互換制度

放送大学授業科目の履修方法

試験・レポート・卒業論文・地域学研究・成績

単位認定を伴う課外活動

ディプロマ・プログラム

グローバル市民プログラム

地域経営プログラム

情報メディアプログラム

英語イマージョンプログラム

児童英語教育プログラム

日本語教育プログラム

キリスト教教育プログラム

授業

① 授業時間

授業時間は、月曜から金曜日のⅠ～Ⅶ限、土曜日はⅠ・Ⅱ限である。

なお、金曜日のⅡ限には「チャペル・アッセンブリ・アワー」（P.246参照）が実施される。

時限	時 間
I	9：10 10：40
II	10：50 12：20
III	13：10 14：40
IV	14：50 16：20
V	16：30 18：00
VI	18：10 19：40
Ⅶ	19：00 20：30

② 休 講

大学又は各授業科目の担当教員にやむを得ない事情が発生し、休講する場合は、掲示及びインターネットの本学ホームページにより通知する。休講の掲示がなく授業開始30分以上経過しても教員が入室しない場合は、教務係に申し出て確認すること。

なお、休講について電話による問い合わせには応じられない。

③ 補 講

授業科目によっては、補講を行うことがある。補講時間割は掲示により通知する。

④ 集中講義

授業科目によっては、原則として学年暦に定められた期間内に、集中講義によって授業を行うことがある。集中講義の日程等は、掲示により通知する。

5 悪天候、交通機関運休等の場合の授業及び試験の取り扱いについて

以下の①もしくは②が当てはまる場合、本学は以下の＜適用方法＞によりオンライン授業に切り替えたり、休講ないし延期の措置をとるので、＜適用方法＞をよく確認すること。オンライン授業に切り替わる場合は、Google Classroom等による科目担当教員の指示にしたがって授業を受けること。休講や試験が延期される場合は、教務係より補講や試験日程の連絡が改めてある。

ただしそれ以外であっても、大地震等で通学に危険が伴うことが予想される場合は、安全を第一に考え、通学すべきかどうかは各人の責任で判断すること。

① 新潟市または新発田市に「特別警報」が発令されている場合、または「暴風警報」と「大雨警報」が同時に発令されている場合、もしくはどちらかの市に「暴風雪警報」が発令されている場合

② JR白新線がストライキ、天候不順、事故等により全面的に運行を停止している場合（特定の車両の運行停止や一時的な運行停止は除く）

＜適用方法＞

- 午前7時現在で①もしくは②が当てはまる場合、通常授業を全日オンライン授業に切り替える。ただし、科目によりオンライン授業に切り替えることができない場合は、休講とし後日補講を行うこととする。
- 1限の授業開始以降に①もしくは②が当てはまるようになった場合は、当日のそれ以降に開始される授業を休講とする。
- 試験日に①もしくは②が当てはまつた場合は、別途日程を設け、実施する。
- ①もしくは②の当日の判断のほかに、JRから事前に運休の連絡を受けたり、「特別警報」、「暴風警報と大雨警報」または「暴風雪警報」等の発令予報があつて、該当日の通常授業の実施が難しいと大学が判断した場合は、事前にオンライン授業に切り替える指示を出すことがある。その場合は、一斉メールで通知する。なお、オンライン授業については、Google Classroom等を通じて各担当教員から通知されるので注意すること。休講に伴う補講および試験の中止による別日程については改めて大学から通知する。

「特別警報」、「暴風警報と大雨警報」または「暴風雪警報」発令時の授業の取り扱い表

対象地域	時間	警報状態	取り扱い
新潟市または 新発田市	午前7時現在	警報発令中	全日オンライン授業
	1限の授業開始以降	警報発令	発令後開始される授業は休講

JR白新線の事故または悪天候等による運行停止

対象区間	時間	運行状況	取り扱い
JR（白新線）	午前7時現在	運行停止中	全日オンライン授業
	1限の授業開始以降	運行停止	運行停止後開始される授業は休講

上記のオンライン授業への切り替え、休講または試験の中止の取り扱いが生じた場合は、必要に応じて本学ポータルサイトおよび敬和メールで告知する。明記されていない問題等で適用方法に不明な点がある場合は、教務課教務係または学生係に問い合わせること。

授業科目及びその単位数・卒業要件

1 カリキュラム

本学のカリキュラムは、共通基礎科目、共通専門科目、学科専門科目に区分される。

(1) 共通基礎科目

A群：宗教と思想、B群：人間行動と歴史、C群：人間と社会、D群：情報とコンピュータ・サイエンス、E群：言語とコミュニケーション、F群：スポーツと健康、G群：思考と実践、H群：他大学における履修の8つの群で構成される。

幅広い教養を身につけ、広い視野から真理を学び考える力を養い、深い人間性の育成を目指す。専門科目へとつながる基礎となる科目である。

(2) 共通専門科目

HD群：情報技術系（2019年度入学者のみ）、HG群：地域学系、HE群：英語コミュニケーション系、HF群：日本語、フランス語、ドイツ語、中国語のレベルⅢと語学オプション・コース、HH群：他大学科目系の科目等で構成される。

(3) 学科専門科目と各コース

英語文化コミュニケーション学科は、「英語教育」、「キャリア英語」（2020年度以降入学者は「キャリアコミュニケーション」）、「文学・文化」の3つのコースに分かれている。

国際文化学科は、「歴史探究」、「多文化理解」、「国際社会」、「情報メディア」の4つのコースに分かれている。

共生社会学科は、「ソーシャルビジネス・コース」、「ソーシャルワーク・コース」の2つのコースに分かれている。

自分の興味のあるコースを選択し、それぞれの学習目標にあったコースの入門科目を経て、専門科目を系統的に学ぶことができる。また、コースの枠を超えて他のコース科目、他学科の科目を自由に選択することができる。

① 英語教育コース

このコースは、将来、中学校・高等学校の教員や、児童英語の指導員など、教育に関わる仕事に就くことを目的にしている人のためのものである。英語を教えるために必要な知識を身につけるとともに、教える技術を実践的に学んで専門教科の知識を深め、理論と実践の両面に精通した人材を育成することを目指している。

また、4年間の学びを通して、教員に必要な主体性や協調性、責任感、リーダーシップ等を身につけ、人間としても成長して社会に貢献できるようになることも目的とされている。

② キャリアコミュニケーション・コース（2020年度以降入学者）

このコースは、英語によるコミュニケーション・スキルをさらに磨き、将来のキャリアに生かしたいと考えている学生向けのコースである。コミュニケーション主体としての人間理解を基軸に、今後の人生の様々な場面で生きる実践的な英語を鍛える科目群と、地域や世界について深く学ぶ科目群を並行して履修する。留学やインターンシップを含む国内外でのアクティブ・ラーニングにも積極的に参加することで、グローバル・マインドを備えて活躍できる人材を育成する。

キャリア英語コース（2019年度入学者）

このコースは、英語を使うことが好きで、将来、英語を使う仕事を希望している人に向いているコースである。ビジネスの現場で使える英語を鍛える科目群と、国際教養・社会科学の科目群をバランスよく履修し、英語を使ってグローバルに活躍する人材を育てる。

また、インターンシップや留学への積極的な参加を強くすすめる。

③ 文学・文化コース

このコースでは、人間、社会、文化について学び、グローバルな空間で言葉の力を深化させる。英米の文学作品や文化、歴史、社会の動きを学び、言葉に対するセンスを磨くと共に、英語圏の人々の人間理解や世界観を学ぶ。同時に、自分の文化への意識と理解を深めることも目指す。

④ 歴史探究コース

このコースでは、日本史、アジア史、ヨーロッパ史の学びを通じて、人類社会の過去における営みの中に私たちの現在を知るさまざまな英知を探究し、人類にとってより良い社会を築いていく力を育成する。

⑤ 多文化理解コース

このコースでは、ヨーロッパ、アジアの多様な文化や習慣を理解し、グローバル化が進行する現代の多文化社会の中で、自己のアイデンティティーを保ちながら、異なる他者との絆を深める力を育成する。

⑥ 国際社会コース

このコースでは、国際政治、環境経済、国際法、情報メディアの勉学を通じて、複雑な国際社会を分析し、グローバルな視点を養う。自分たちの社会と世界のつながりを理解し、当事者意識を持って行動する力を育成する。

⑦ 情報メディアコース

このコースでは、情報メディアに関する諸領域を学び、ウェブや映像等の「発信力」を磨く。「発信力」をいかした実践活動により、地域社会の課題を解決する力を育成する。

⑧ ソーシャルビジネス・コース

このコースでは、地域の様々な課題をビジネスの方法でその解決策を図るソーシャルビジネスのあり方やその仕組みについて学ぶ。営利を目的としない新しいビジネスを指しており、地域課題解決に必要な幅広い知識とスキルを身につける人材を育成する。

⑨ ソーシャルワーク・コース

このコースでは、社会福祉の基本や実践を学んで、今後ますます活躍する分野が広がるソーシャル・ワーカーの人材を育成する。さまざまな分野の社会福祉施設、社会福祉協議会、病院、新たに広がる相談業務の分野への進出が期待される。社会福祉士国家試験受験資格、社会福祉主事等の資格が得られる。

カリキュラムの構成

英語文化コミュニケーション学科	国際文化学科	共生社会学科
共通基礎科目		
共通専門科目（上級言語等）		
学科専門科目		
英語教育コース キャリア・コミュニケーションコース(キャリア英語コース) 文学・文化コース	歴史探究コース 多文化理解コース 国際社会コース 情報メディアコース	ソーシャルビジネス・コース ソーシャルワーク・コース

2 授業科目

〈2024年度以降入学者向け〉

(1) 共通基礎科目

区分	番号	名 称	開講年次	単位数		読替科目	備 考
				必修	選択		
A群 宗教と思想	GA001	キリスト教学 1	1	2			
	GA002	キリスト教学 2	1	2			
	GA003	哲学 1	1		2		
	GA004	哲学 2	1		2		
	GA005	共生の哲学 1	2		2		
	GA006	共生の哲学 2	2		2		
	GA007	文学 1	1		2		
	GA008	文学 2	1		2		
B群 人間行動 と歴史	GB001	心理学 1	1		2		
	GB002	心理学 2	1		2		
	GB003	文化人類学 1	1		2		
	GB004	文化人類学 2	1		2		
	GB005	日本史概説	1		2		
	GB006	歴史学	1		2		
	GB007	考古学 1	1		2		
	GB008	考古学 2	1		2		
C群 人間と社会	GC001	政治学 1	1		2		
	GC002	政治学 2	1		2		
	GC003	経済学 1	1		2		
	GC004	経済学 2	1		2		
	GC005	経営学 1	1		2		
	GC006	経営学 2	1		2		
	GC007	日本国憲法 1	1		2		
	GC008	日本国憲法 2	1		2		
	GC009	法学 1	1		2		
	GC010	法学 2	1		2		
	GC011	社会学 1	1		2	社会理論 と社会システム	
	GC012	社会学 2	1		2		
	GC013	人文地理学	2		2		
	GC014	自然地理学	2		2		
D群 情報と コンピュータ・サイエンス	GD001	コンピュータリテラシー	1	2			
	GD002	情報技術資格対策 (Word) Mos365	1		2		
	GD003	情報技術資格対策 (Excel) Mos365	1		2		
	GD004	情報技術資格対策 (ITパスポート)	2		4		
	GD005	データサイエンス入門	2		2		
	GD006	情報技術資格対策 (デジタルコンテンツ制作)	2		2		
	GD007	AIリテラシー	2		2		
E群 言語と コミュニケーション	GE001	KEEP A1(英語読む・書く) Foundations	1		4	英語文化コミュニケーション学科は英語16単位が必修。国際文化学科は英語、中国語、ドイツ語の中から1言語16単位が必修。共生社会学科は英語8単位が必修。詳しくはP.163~166を参照。	
	GE001	KEEP A1(英語読む・書く) General	1		4		
	GE001	KEEP A1(英語読む・書く) Intermediate	1		4		
	GE001	KEEP A1(英語読む・書く) Advanced	1		4		
	GE002	KEEP A2(英語読む・書く) Foundations	1		4		
	GE002	KEEP A2(英語読む・書く) General	1		4		
	GE002	KEEP A2(英語読む・書く) Intermediate	1		4		

区分	番号	名称	開講年次	単位数		読替科目	備考
				必修	選択		
E群 言語と コミュニケーション	GE002	KEEP A2(英語読む・書く) Advanced	1	4		英語文化コミュニケーション学科の学生はE群の英語16単位必修の他に、E群の英語科目またはHE群16単位が必修	
	GE003	KEEP B1(英語聞く・話す) Foundations	1	4			
	GE003	KEEP B1(英語聞く・話す) General	1	4			
	GE003	KEEP B1(英語聞く・話す) Intermediate	1	4			
	GE003	KEEP B1(英語聞く・話す) Advanced	1	4			
	GE004	KEEP B2(英語聞く・話す) Foundations	1	4			
	GE004	KEEP B2(英語聞く・話す) General	1	4			
	GE004	KEEP B2(英語聞く・話す) Intermediate	1	4			
	GE004	KEEP B2(英語聞く・話す) Advanced	1	4			
	GE005	中国語 I—文法 1	1	4			
	GE006	中国語 I—文法 2	1	4			
	GE007	中国語 I—読む・書く 1	1	2			
	GE008	中国語 I—読む・書く 2	1	2			
	GE009	中国語 I—聞く・話す 1	1	2			
	GE010	中国語 I—聞く・話す 2	1	2			
	GE011	中国語 II—文法 1	2	2			
	GE012	中国語 II—文法 2	2	2			
	GE013	中国語 II—読む・書く 1	2	2			
	GE014	中国語 II—読む・書く 2	2	2			
	GE015	中国語 II—聞く・話す 1	2	2			
	GE016	中国語 II—聞く・話す 2	2	2			
	GE017	ドイツ語 I—文法 1	1	4			
	GE018	ドイツ語 I—文法 2	1	4			
	GE019	ドイツ語 I—読む・書く 1	1	2			
	GE020	ドイツ語 I—読む・書く 2	1	2			
	GE021	ドイツ語 I—聞く・話す 1	1	2			
	GE022	ドイツ語 I—聞く・話す 2	1	2			
	GE023	ドイツ語 II—文法 1	2	2			
	GE024	ドイツ語 II—文法 2	2	2			
	GE025	ドイツ語 II—読む・書く 1	2	2			
	GE026	ドイツ語 II—読む・書く 2	2	2			
	GE027	ドイツ語 II—聞く・話す 1	2	2			
	GE028	ドイツ語 II—聞く・話す 2	2	2			
	GE029	フランス語 I—読む・書く 1	1	2			
	GE030	フランス語 I—読む・書く 2	1	2			
	GE031	フランス語 I—聞く・話す 1	1	2			
	GE032	フランス語 I—聞く・話す 2	1	2			
	GE033	フランス語 II—読む・書く 1	2	2			
	GE034	フランス語 II—読む・書く 2	2	2			
	GE035	フランス語 II—聞く・話す 1	2	2			
	GE036	フランス語 II—聞く・話す 2	2	2			
	GE037	日本語 I—読む・書く	1	4		日本語は非母語話者向け。 国際文化学科及び共生社会学科の日本語非母語話者は日本語を外国语（必修）とすることができる。	
	GE038	日本語 I—聞く・話す	1	4			
	GE039	日本語 II—読む・書く	1	4			
	GE040	日本語 II—聞く・話す	1	4			
	GE041	日本語 III—読む・書く	1・2	2			
	GE042	日本語 III—聞く・話す	1・2	2			
	GE043	日本語 IV—読む・書く	1・2	2			
	GE044	日本語 IV—聞く・話す	1・2	2			

区分	番号	名 称	開講年次	単位数		読替科目	備 考
				必修	選択		
F群 スポーツと健康	GF001	スポーツ実習1	1	1			
	GF002	スポーツ実習2	1	1			
	GF003	スポーツ実習3	2		1		
	GF004	スポーツ実習4	2		1		
	GF005	スポーツとリバーラルアーツ	2		2		
G群 思考と実践	GG001	基礎演習	1	2			
	GG002	ボランティア論	1	2			
	GG003	ボランティア	1		1~2		
	GG004	地域学入門	1	1			
	GG005	サービスラーニング	1		1~2		
	GG006	サービスラーニング(卒)1	4		2		
	GG007	サービスラーニング(卒)2	4		2		
	GG008	インターンシップ	1		1~2		
	GG009	キャリア開発入門	2		1		
	GG010	キャリア開発1	3		2		
	GG011	キャリア開発2	3		2		
	GG012	チャペル・アッセンブリ・アワー1	1		1		
	GG013	チャペル・アッセンブリ・アワー2	1		1		
	GG014	チャペル・アッセンブリ・アワー3	2		1		
	GG015	チャペル・アッセンブリ・アワー4	2		1		
	GG016	チャペル・アッセンブリ・アワー5	3		1		
	GG017	チャペル・アッセンブリ・アワー6	3		1		
	GG018	チャペル・アッセンブリ・アワー7	4		1		
	GG019	チャペル・アッセンブリ・アワー8	4		1		
	GG020	基礎数学1	1		2		
	GG021	基礎数学2	1		2		
H群 他大学における履修		他大学基礎科目(学校名)	1		1~60		最大60単位まで適宜認定

(2) 共通専門科目

区分	番号	名 称	開講年次	単位数		読替科目	備 考
				必修	選択		
HG群	HG201	地域学1	2		2		
	HG202	地域学2	2		2		
	HG401	地域学研究	4		4		
	HG203	教育活動アクティビワーク	2		2		
HE群	HE201	英語コミュニケーション・スキルズ A1 (Intermediate)	2		4		英語文化コミュニケーション学科の学生はHE群から16単位が必修。そのうち、8単位以上は英語コミュニケーション・スキルズA、Bから修得すること。この16単位を共通基礎科目E群の英語科目で満たすことができる。
	HE201	英語コミュニケーション・スキルズ A1 (Advanced)	2		4		
	HE202	英語コミュニケーション・スキルズ A2 (Intermediate)	2		4		
	HE202	英語コミュニケーション・スキルズ A2 (Advanced)	2		4		
	HE203	英語コミュニケーション・スキルズ B1 (Intermediate)	2		4		
	HE203	英語コミュニケーション・スキルズ B1 (Advanced)	2		4		
	HE204	英語コミュニケーション・スキルズ B2 (Intermediate)	2		4		
	HE204	英語コミュニケーション・スキルズ B2 (Advanced)	2		4		
	HE101	検定試験準備コース(TOEIC)I1	1		2		
	HE102	検定試験準備コース(TOEIC)I2	1		2		
	HE103	検定試験準備コース(英語検定2級)	1		2		
	HE205	観光と留学の英語1	2		2		
	HE206	観光と留学の英語2	2		2		

授業科目			開講年次	単位数		読替科目	備考
区分	番号	名称		必修	選択		
HF群	HF101	留学生と学ぶ日本語表現	1		2		
	HF201	日本語表現 I	1・2		2		
	HF202	日本語表現 II	1・2		2		
	HF203	日本語能力試験対策クラス I	1・2		2		
	HF204	日本語能力試験対策クラス II	1・2		2		
	HF205	日本語教育学概論 1	2		2		
	HF206	日本語教育学概論 2	2		2		
	HF207	日本語学 1	2		2		
	HF208	日本語学 2	2		2		
	HF209	日本事情 1	2		2		
	HF210	日本事情 2	2		2		
	HF301	フランス語III－読む・書く 1	3		2		
	HF302	フランス語III－読む・書く 2	3		2		
	HF303	フランス語III－聴く・話す 1	3		2		
	HF304	フランス語III－聴く・話す 2	3		2		
	HF305	ドイツ語III－読む・書く 1	3		2		
	HF306	ドイツ語III－読む・書く 2	3		2		
	HF307	ドイツ語III－聴く・話す 1	3		2		
	HF308	ドイツ語III－聴く・話す 2	3		2		
	HF309	中国語III－読む・書く 1	3		2		
	HF310	中国語III－読む・書く 2	3		2		
	HF311	中国語III－聴く・話す 1	3		2		
	HF312	中国語III－聴く・話す 2	3		2		
	HF313	言語学 1	3		2		
	HF314	言語学 2	3		2		
	語学オプション・コース		2~4		各2・4		
HH群		他大学専門科目(学校名)	1		1~60		最大60単位まで適宜認定

(3) 学科専門科目

① 英語教育コース(英語文化コミュニケーション学科)

授業科目			開講年次	単位数		読替科目	備考
区分	領域	番号		必修	選択		
入門科目	各コース共通	LL001	コミュニケーション入門	1	2		
基幹科目	各コース共通	LL011	英文法 1	1	2		
		LL012	英文法 2	1	2		
		LL013	講読 1	2		2	
		LL014	講読 2	2		2	
		LL015	文化交流論 1	2		2	
		LL016	文化交流論 2	2		2	
展開科目	中学校・高等学校の教員をめざす	LE201	英語学 1	2	2		中学校・高等学校の免許状取得のためには、左記に加えて本学で指定された科目の履修および単位の修得が必要となります。
		LE202	英語学 2	2	2		
		LE203	英語の発音 1	2		2	
		LE204	英語の発音 2	2		2	
		LC205	英語文学 1	2		2	
		LC206	英語文学 2	2		2	
		LC207	文学研究A 1	2		2	
		LC208	文学研究A 2	2		2	

区分	領域	番号	名 称	開講年次	単位数		読替科目	備 考
					必修	選択		
中学校・高等学校の教員をめざす		LC209	文学研究B 1	2		2		中学校・高等学校の免許状取得のためには、左記に加えて本学で指定された科目の履修および単位の修得が必要となります。
		LC210	文学研究B 2	2		2		
		LC201	言語コミュニケーション論 1	2		2		
		LC202	言語コミュニケーション論 2	2		2		
		LC203	異文化コミュニケーション論 1	2		2		
		LC204	異文化コミュニケーション論 2	2		2		
		LE205	コミュニケーションの心理学 1	2		2		
		LE206	コミュニケーションの心理学 2	2		2		
		LE207	英語教育学概論	2	2			
		LE208	英語教材研究論	2	2			
		LB303	メディア英語 1	3		2		
		LB304	メディア英語 2	3		2		
		LC301	英語文化圏研究 1	3		2		
		LC302	英語文化圏研究 2	3		2		
		LC303	アメリカ社会と歴史 1	3		2		
		LC304	アメリカ社会と歴史 2	3		2		
		LE301	英語科教科教育法 1	3	2			
		LE302	英語科教科教育法 2	3	2			
		LE303	英語教採準備コース	3		2		
小学校の教員をめざす(本学における中・高の免許状+玉川大学通信教育部との連携)		LE201	英語学 1	2	2			
		LE202	英語学 2	2	2			
		LE203	英語の発音 1	2		2		
		LE204	英語の発音 2	2		2		
		LC205	英語文学 1	2		2		
		LC206	英語文学 2	2		2		
		LC207	文学研究A 1	2		2		
		LC208	文学研究A 2	2		2		
		LC209	文学研究B 1	2		2		
		LC210	文学研究B 2	2		2		
		LC201	言語コミュニケーション論 1	2		2		
		LC202	言語コミュニケーション論 2	2		2		
		LC203	異文化コミュニケーション論 1	2		2		
		LC204	異文化コミュニケーション論 2	2		2		
		LE205	コミュニケーションの心理学 1	2		2		
		LE206	コミュニケーションの心理学 2	2		2		
		LE207	英語教育学概論	2	2			
		LE208	英語教材研究論	2	2			
		LB303	メディア英語 1	3		2		
		LB304	メディア英語 2	3		2		
		LC301	英語文化圏研究 1	3		2		
		LC302	英語文化圏研究 2	3		2		
		LC303	アメリカ社会と歴史 1	3		2		
		LC304	アメリカ社会と歴史 2	3		2		
		LE301	英語科教科教育法 1	3	2			
		LE302	英語科教科教育法 2	3	2			
		LE303	英語教採準備コース	3	2			

授業科目				開講年次	単位数		読替科目	備考
区分	領域	番号	名称		必修	選択		
展開科目	本学児童英語教育プログラム修了証の取得をめざす	LE203	英語の発音 1	2		2		小学校の教員をめざす学生には児童英語教育関連の科目を履修することを強く勧める。 この領域を選択する場合、児童英語教育ディプロマ取得を条件とする。
		LE204	英語の発音 2	2		2		
		LC207	文学研究A 1	2		2		
		LC208	文学研究A 2	2		2		
		LC209	文学研究B 1	2		2		
		LC210	文学研究B 2	2		2		
		LE209	児童文学 1	2		2		
		LE210	児童文学 2	2		2		
		LE211	児童英語教育概論 1	2	2			
		LE212	児童英語教育概論 2	2	2			
		LE213	児童英語教育実践 1	2	2			
		LE214	児童英語教育実践 2	2	2			
		LE304	児童英語指導実習論	3	2			
演習科目	各コース共通	LL501	入門演習	1	2			
		LL502	コミュニケーション演習 1	2	2			
		LL503	コミュニケーション演習 2	2	2			
		LL504	コミュニケーション演習 3	3	2			
		LL505	コミュニケーション演習 4	3	2			
		LL506	コミュニケーション演習 5	4		2		
		LL507	コミュニケーション演習 6	4		2		
		LL601	卒業論文	4		6		

② キャリアコミュニケーション・コース（英語文化コミュニケーション学科）

授業科目				開講年次	単位数		読替科目	備考
区分	領域	番号	名称		必修	選択		
入門科目	各コース共通	LL001	コミュニケーション入門	1	2			
基幹科目	各コース共通	LL011	英文法 1	1	2			選択必修20単位以上 20単位には異文化研究（4単位まで）を含めることができる。 共通基礎科目、共通専門科目およびエクステンション科目の外国語の履修を強く勧める。
		LL012	英文法 2	1	2			
		LL013	講読 1	2		2		
		LL014	講読 2	2		2		
		LL015	文化交流論 1	2		2		
		LL016	文化交流論 2	2		2		
展開科目	キャリアコミュニケーション	LB101	通訳実践	1		2		選択必修20単位以上 20単位には異文化研究（4単位まで）を含めることができる。 共通基礎科目、共通専門科目およびエクステンション科目の外国語の履修を強く勧める。
		LB102	検定試験準備コース（英語検定準1級）	1		2		
		LB201	検定試験準備コース（TOEIC）Ⅱ 1	2		2		
		LB202	検定試験準備コース（TOEIC）Ⅱ 2	2		2		
		LB203	ビジネス英語 1	2		2		
		LB204	ビジネス英語 2	2		2		
		LB205	通訳（入門）1	2		2		
		LB206	通訳 2	2		2		
		LB207	翻訳（入門）1	2		2		
		LB208	翻訳 2	2		2		
		LB209	プレゼンテーション・スキルズ 1	2		2		
		LB210	プレゼンテーション・スキルズ 2	2		2		
		LB211	リテラシーとコンピテンシー 1	2		2		
		LB212	リテラシーとコンピテンシー 2	2		2		
		LB213	海外キャリア研修	2		2		
		LB301	観光キャリア英語 1	3		2		
		LB302	観光キャリア英語 2	3		2		
		LB303	メディア英語 1	3		2		
		LB304	メディア英語 2	3		2		
		LB305	グローバル・イシューズ 1	3		2		

区分	領域	番号	名 称	開講年次	単位数		読替科目	備 考
					必修	選択		
展開科目		LB306	グローバル・イシューズ2	3		2		
		KW013	国際経済論1	2		2		
		KW014	国際経済論2	2		2		
		VB013	まちづくり論1	3		2		
		VB014	まちづくり論2	3		2		
演習科目	各コース共通	LL501	入門演習	1	2			
		LL502	コミュニケーション演習1	2	2			
		LL503	コミュニケーション演習2	2	2			
		LL504	コミュニケーション演習3	3	2			
		LL505	コミュニケーション演習4	3	2			
		LL506	コミュニケーション演習5	4		2		
		LL507	コミュニケーション演習6	4		2		
		LL601	卒業論文	4		6		

③ 文学・文化コース（英語文化コミュニケーション学科）

区分	領域	番号	名 称	開講年次	単位数		読替科目	備 考
					必修	選択		
入門科目	各コース共通	LL001	コミュニケーション入門	1	2			いづれかの領域で16単位以上修得共通基礎科目の文学1・2を履修することを強く勧める
		LL011	英文法1	1	2			
基幹科目	各コース共通	LL012	英文法2	1	2			
		LL013	講読1	2		2		
		LL014	講読2	2		2		
		LL015	文化交流論1	2		2		
		LL016	文化交流論2	2		2		
		LC201	言語コミュニケーション論1	2		2		
展開科目	グローバル・スタディーズ/異文化理解	LC202	言語コミュニケーション論2	2		2		
		LC203	異文化コミュニケーション論1	2		2		
		LC204	異文化コミュニケーション論2	2		2		
		LB213	海外キャリア研修	2		2		
		LB211	リテラシーとコンピテンシー1	2		2		
		LB212	リテラシーとコンピテンシー2	2		2		
		LB303	メディア英語1	3		2		
		LB304	メディア英語2	3		2		
		LC205	英語文学1	2		2		
		LC206	英語文学2	2		2		
		LC301	英語文化圏研究1	3		2		
		LC302	英語文化圏研究2	3		2		
		LC303	アメリカ社会と歴史1	3		2		
		LC304	アメリカ社会と歴史2	3		2		
		LB305	グローバル・イシューズ1	3		2		
		LB306	グローバル・イシューズ2	3		2		
		LC305	カレント・イシューズ1	3		2		
		LC306	カレント・イシューズ2	3		2		
		LC307	ジャパン・スタディーズ1	3		2		
		LC308	ジャパン・スタディーズ2	3		2		
		KM011	日本文化論1	2		2		
		KM012	日本文化論2	2		2		
		KH011	日本近現代史1	2		2		

区分	領域	番号	名 称	開講年次	単位数		備 考
					必修	選択	
展開科目	グローバル・スタディーズ/異文化理解	KH012	日本近現代史2	2	2	2	
		KW305	国際協力論1	3	2	2	
		KW306	国際協力論2	3	2	2	
		KH013	アジア史概説	2	2	2	
		KH014	アジア史	2	2	2	
		KM205	ドイツ語文化圏研究1	2	2	2	
		KM206	ドイツ語文化圏研究2	2	2	2	
		KM209	イスラーム文化圏研究1	2	2	2	
		KM210	イスラーム文化圏研究2	2	2	2	
		KM015	ヨーロッパ文化論1	2	2	2	
展開科目	文学と表現	KM016	ヨーロッパ文化論2	2	2	2	
		LC205	英語文学1	2	2	2	いずれかの領域で16単位以上修得共通基礎科目の哲学1・2、政治学1・2を履修することを強く勧める
		LC206	英語文学2	2	2	2	
		LC207	文学研究A1	2	2	2	
		LC208	文学研究A2	2	2	2	
		LC209	文学研究B1	2	2	2	
		LC210	文学研究B2	2	2	2	
		LE209	児童文学1	2	2	2	
		LE210	児童文学2	2	2	2	
		LE203	英語の発音1	2	2	2	
		LE204	英語の発音2	2	2	2	
		LC211	現代文学・文化論1	2	2	2	
		LC212	現代文学・文化論2	2	2	2	
		LC213	アメリカ現代社会1	2	2	2	
		LC214	アメリカ現代社会2	2	2	2	
		LB209	プレゼンテーション・スキルズ1	2	2	2	
		LB210	プレゼンテーション・スキルズ2	2	2	2	
		KM015	ヨーロッパ文化論1	2	2	2	
		KM016	ヨーロッパ文化論2	2	2	2	
		KH203	キリスト教史1	2	2	2	
		KH204	キリスト教史2	2	2	2	
		KH207	音楽・音楽史1	2	2	2	
		KH208	音楽・音楽史2	2	2	2	
		KI206	映像制作1	2	2	2	
		KI207	映像制作2	2	2	2	
		KI220	視覚芸術論1	2	2	2	
		KI221	視覚芸術論2	2	2	2	
		VB201	死生学1	2	2	2	
		VB202	死生学2	2	2	2	
		KI013	メディア産業論	2	2	2	
		KI203	アニメ文化経済論	2	2	2	
		KI214	コピーライティング研究	2	2	2	
		KI215	広報・広告コミュニケーション論	2	2	2	
		KI014	デジタルコンテンツ概論	2	2	2	
		KI209	コンテンツプロデュース論	2	2	2	

区分	領域	番号	名 称	開講年次	単位数		読替科目	備 考
					必修	選択		
演習科目	各コース共通	LL501	入門演習	1	2			
		LL502	コミュニケーション演習1	2	2			
		LL503	コミュニケーション演習2	2	2			
		LL504	コミュニケーション演習3	3	2			
		LL505	コミュニケーション演習4	3	2			
		LL506	コミュニケーション演習5	4		2		
		LL507	コミュニケーション演習6	4		2		
		LL601	卒業論文	4		6		

(4) 歴史探究コース (国際文化学科)

区分	番号	名 称	開講年次	単位数		読替科目	備 考
				必修	選択		
入門科目	KK001	国際文化入門	1	2			
基幹科目	KH011	日本近現代史1	2		2		歴史探究コースを選択した場合、国際文化入門、入門演習、歴史学演習1~4は必修、また、日本近現代史1・2、アジア史概説・アジア史、西洋史概説・西洋史のうち、いずれか1組を選択必修。 コース科目20単位以上修得。
	KH012	日本近現代史2	2		2		
	KH013	アジア史概説	2		2		
	KH014	アジア史	2		2		
	KH015	西洋史概説	2		2		
	KH016	西洋史	2		2		
展開科目	KH101	科学史1	1		2		
	KH102	科学史2	1		2		
	KH103	国際関係史1	1		2		
	KH104	国際関係史2	1		2		
	KH201	日本思想史1	2		2		
	KH202	日本思想史2	2		2		
	KH203	キリスト教史1	2		2		
	KH204	キリスト教史2	2		2		
	KH205	倫理思想史1	2		2		
	KH206	倫理思想史2	2		2		
	KH207	音楽・音楽史1	2		2		
	KH208	音楽・音楽史2	2		2		
	KH209	経済史1	2		2		
	KH210	経済史2	2		2		
	KH211	日本と世界の現代史	2		2		
	KH212	近代日本史料論	2		2		
	KH213	アジア近現代史1	2		2		
	KH214	アジア近現代史2	2		2		
演習科目	KH215	歴史学フィールドワーク1	2		2		
	KH216	歴史学フィールドワーク2	2		2		
	KH217	歴史学フィールドワーク3	2		2		
	KH301	ヨーロッパ思想史1	3		2		
	KH302	ヨーロッパ思想史2	3		2		
	LC303	アメリカ社会と歴史1	3		2		
	LC304	アメリカ社会と歴史2	3		2		

授業科目			開講年次	単位数		読替科目	備考
区分	番号	名称		必修	選択		
演習科目	KH503	歴史学演習3	3	2			
	KH504	歴史学演習4	3	2			
	KH505	歴史学演習5	4		2		
	KH506	歴史学演習6	4		2		
	KH601	卒業論文	4		6		

⑤ 多文化理解コース（国際文化学科）

授業科目			開講年次	単位数		読替科目	備考
区分	番号	名称		必修	選択		
入門科目	KK001	国際文化入門	1	2			
基幹科目	KM011	日本文化論1	2		2		多文化理解コースを選択した場合、国際文化入門、入門演習、文化論演習1・2・3・4は必修、また日本文化論1・2、アジア文化論1・2、ヨーロッパ文化論1・2のうち、いずれか1組を選択必修。コース科目20単位以上修得。
	KM012	日本文化論2	2		2		
	KM013	アジア文化論1	2		2		
	KM014	アジア文化論2	2		2		
	KM015	ヨーロッパ文化論1	2		2		
	KM016	ヨーロッパ文化論2	2		2		
展開科目	KH101	科学史1	1		2		
	KH102	科学史2	1		2		
	KM201	地域文化論1	2		2		
	KM202	地域文化論2	2		2		
	KM203	アジア民俗学1	2		2		
	KM204	アジア民俗学2	2		2		
	KM205	ドイツ語文化圏研究1	2		2		
	KM206	ドイツ語文化圏研究2	2		2		
	KM207	フランス語文化圏研究1	2		2		
	KM208	フランス語文化圏研究2	2		2		
	KM209	イスラーム文化圏研究1	2		2		
	KM210	イスラーム文化圏研究2	2		2		
	KH205	倫理思想史1	2		2		
	KH206	倫理思想史2	2		2		
	LC301	英語文化圏研究1	3		2		
	LC302	英語文化圏研究2	3		2		
	LC211	現代文学・文化論1	2		2		
	LC212	現代文学・文化論2	2		2		
	LL015	文化交流論1	2		2		
	LL016	文化交流論2	2		2		
	LC203	異文化コミュニケーション論1	2		2		
	LC204	異文化コミュニケーション論2	2		2		
	LC201	言語コミュニケーション論1	2		2		
	LC202	言語コミュニケーション論2	2		2		
	KM211	比較宗教思想1	2		2		
	KM212	比較宗教思想2	2		2		
	KH301	ヨーロッパ思想史1	3		2		
	KH302	ヨーロッパ思想史2	3		2		
	KM213	地誌	2		2		
	KM301	現代哲学1	3		2		
	KM302	現代哲学2	3		2		
	VS303	生命倫理学1	3		2		
	VS304	生命倫理学2	3		2		

授業科目			開講年次	単位数		読替科目	備考
区分	番号	名称		必修	選択		
演習科目	KK501	入門演習	1	2			
	KM501	文化論演習1	2	2			
	KM502	文化論演習2	2	2			
	KM503	文化論演習3	3	2			
	KM504	文化論演習4	3	2			
	KM505	文化論演習5	4		2		
	KM506	文化論演習6	4		2		
	KM601	卒業論文	4		6		

(6) 国際社会コース（国際文化学科）

授業科目			開講年次	単位数		読替科目	備考
区分	番号	名称		必修	選択		
基幹科目	KK001	国際文化入門	1	2			国際社会コースを選択した場合、国際文化入門、入門演習、現代社会演習1～4は必修。また、国際政治論1・2、国際経済論1・2、国際法1・2のうち、いずれか1組を選択必修。コース科目20単位以上修得。
	KW011	国際政治論1	2		2		
	KW012	国際政治論2	2		2		
	KW013	国際経済論1	2		2		
	KW014	国際経済論2	2		2		
	KW015	国際法1	2		2		
	KW016	国際法2	2		2		
展開科目	KH103	国際関係史1	1		2		国際社会コースを選択した場合、国際文化入門、入門演習、現代社会演習1～4は必修。また、国際政治論1・2、国際経済論1・2、国際法1・2のうち、いずれか1組を選択必修。コース科目20単位以上修得。
	KH104	国際関係史2	1		2		
	KH209	経済史1	2		2		
	KH210	経済史2	2		2		
	KW201	マーケティング論1	2		2		
	KW202	マーケティング論2	2		2		
	KW203	地域統合論1	2		2		
	KW204	地域統合論2	2		2		
	KW205	金融論1	2		2		
	KW206	金融論2	2		2		
	KW207	地域産業論1	2		2		
	KW208	地域産業論2	2		2		
	KW209	現代企業論	2		2		
	KI015	時事問題研究1	2		2		
	KI016	時事問題研究2	2		2		
	KW301	国際人権論1	3		2		
	KW302	国際人権論2	3		2		
	KW303	国際機構論1	3		2		
	KW304	国際機構論2	3		2		
	KW305	国際協力論1	3		2		
	KW306	国際協力論2	3		2		
	KW307	平和学1	3		2		
	KW308	平和学2	3		2		
	KW309	環境経済学1	3		2		
	KW310	環境経済学2	3		2		
	KW311	中小企業論	3		2		
	VS305	社会福祉調査の基礎	3		2		
	LB209	プレゼンテーションスキル1	2		2		
	LB210	プレゼンテーションスキル2	2		2		

授業科目			開講年次	単位数		読替科目	備考
区分	番号	名称		必修	選択		
演習科目	KK501	入門演習	1	2			
	KW501	現代社会演習1	2	2			
	KW502	現代社会演習2	2	2			
	KW503	現代社会演習3	3	2			
	KW504	現代社会演習4	3	2			
	KW505	現代社会演習5	4		2		
	KW506	現代社会演習6	4		2		
	KW601	卒業論文	4		6		

(7) 情報メディア・コース (国際文化学科)

授業科目			開講年次	単位数		読替科目	備考
区分	番号	名称		必修	選択		
入門科目	KK001	国際文化入門	1	2			
	KI011	情報メディア論	1		2		
	KI012	デジタルジャーナリズム論	1		2		
	KI013	メディア産業論	2		2		
	KI014	デジタルコンテンツ概論	2		2		
	KI015	時事問題研究1	2		2		
	KI016	時事問題研究2	2		2		
基幹科目	KI201	Web技術	2		2		
	KI202	情報セキュリティ	2		2		
	KI203	アニメ文化経済論	2		2		
	KI204	デジタルコンテンツ制作1	2		2		
	KI205	デジタルコンテンツ制作2	2		2		
	KI206	映像制作1	2		2		
	KI207	映像制作2	2		2		
	KI208	コンテンツマネジメント	2		2		
	KI209	コンテンツプロデュース論	2		2		
	KI210	スマートフォンアプリ開発1	2		2		
	KI211	スマートフォンアプリ開発2	2		2		
	KI212	アナウンス・ナレーション実習1	2		2		
	KI213	アナウンス・ナレーション実習2	2		2		
	KI214	コーピーライティング研究	2		2		
	KI215	広報・広告コミュニケーション論	2		2		
	KI216	情報メディア特論1(国内取材・研修)	2		2		
	KI217	海外メディア事情(海外取材・研修)	2		2		
	KI218	情報メディア特論2(国内メディア研究)	2		2		
	KI219	情報メディア特論3(eスポーツと社会)	2		2		
展開科目	KI220	視覚芸術論1	2		2		
	KI221	視覚芸術論2	2		2		
	KI222	情報メディアPBL1	2		2		
	KI223	情報メディアPBL2	2		2		
	KW201	マーケティング論1	2		2		
	KW202	マーケティング論2	2		2		
	KI301	著作権法	3		2		
	KI302	情報法	3		2		
	LB303	メディア英語1	3		2		
	LB304	メディア英語2	3		2		

区分	番号	名称	開講年次	単位数		読替科目	備考
				必修	選択		
演習科目	KK501	入門演習	1	2			
	KI501	情報メディア演習 1	2	2			
	KI502	情報メディア演習 2	2	2			
	KI503	情報メディア演習 3	3	2			
	KI504	情報メディア演習 4	3	2			
	KI505	情報メディア演習 5	4		2		
	KI506	情報メディア演習 6	4		2		
	KI601	卒業論文	4		6		

⑧ ソーシャルビジネス・コース（共生社会学科）

区分	番号	名称	開講年次	単位数		読替科目	備考
				必修	選択		
基幹科目	VV001	ソーシャルマネジメント入門	1	2			
	VS011	社会福祉 1	1	2			
	VS012	社会福祉 2	1	2			
	VB011	社会起業論 1	2	2			
	VB012	社会起業論 2	2	2			
	VB013	まちづくり論 1	3	2			
	VB014	まちづくり論 2	3	2			
展開科目 1 社会福祉 関連科目	VB101	キリスト教社会福祉思想史 1	1		2		選択必修12単位以上
	VB102	キリスト教社会福祉思想史 2	1		2		
	VS101	心理学と心理的支援	1		2		
	VS102	ソーシャルワークの基盤と専門職 1	1		2		
	VS201	ソーシャルワークの基盤と専門職 2	2		2		
	VS202	ソーシャルワークの理論と方法 1	2		2		
	VS301	ソーシャルワークの理論と方法 2	3		2		
	VS302	ソーシャルワークの理論と方法 3	3		2		
	VS203	地域福祉 1	2		2		
	VS204	地域福祉 2	2		2		
	VS205	高齢者福祉	2		2		
	VS206	障害者福祉	2		2		
	VS207	児童・家庭福祉	2		2		
	VB201	死生学 1	2		2		
	VB202	死生学 2	2		2		
展開科目 2 ソーシャル ビジネス 関連科目	VS306	社会保障 1	3		2		選択必修12単位以上
	VS307	社会保障 2	3		2		
	VS311	権利擁護を支える法制度	3		2		
	VS308	貧困に対する支援	3		2		
	VS209	保健医療と福祉	2		2		
	KW207	地域産業論 1	2		2		
	KW208	地域産業論 2	2		2		
	KW201	マーケティング論 1	2		2		
	KW202	マーケティング論 2	2		2		
	KW209	現代企業論	2		2		
	VB301	非営利組織論 1	3		2		
	VB302	非営利組織論 2	3		2		
	VB303	国際福祉論	3		2		
	VS305	社会福祉調査の基礎	3		2		
	VS309	福祉サービスの組織と経営	3		2		

授業科目			開講年次	単位数		読替科目	備考
区分	番号	名称		必修	選択		
展開科目2 ソーシャル ビジネス 関連科目	KW301	国際人権論1	3	2			
	KW302	国際人権論2	3	2			
	KW305	国際協力論1	3	2			
	KW306	国際協力論2	3	2			
	KW307	平和学1	3	2			
	KW308	平和学2	3	2			
	KW309	環境経渉学1	3	2			
	KW310	環境経渉学2	3	2			
	KW311	中小企業論	3	2			
	KW013	国際経済論1	2	2			
	KW014	国際経済論2	2	2			
演習科目	VV501	入門演習	1	2			
	VV502	ソーシャルマネジメント演習1	2	2			
	VV503	ソーシャルマネジメント演習2	2	2			
	VV504	ソーシャルマネジメント演習3	3	2			
	VV505	ソーシャルマネジメント演習4	3	2			
	VV506	ソーシャルマネジメント演習5	4		2		
	VV507	ソーシャルマネジメント演習6	4		2		
	VB501	フィールド・トレーニング事前事後指導1	3	1			
	VB502	フィールド・トレーニング事前事後指導2	3	1			
	VB503	フィールド・トレーニング1	3	2			
	VB504	フィールド・トレーニング2	4		2		
	VV508	海外福祉研修	3		2		
	VV601	卒業論文	4		6		

⑨ ソーシャルワーク・コース（共生社会学科）

授業科目			開講年次	単位数		読替科目	備考
区分	番号	名称		必修	選択		
入門科目	VV001	ソーシャルマネジメント入門	1	2			
基幹科目	VS011	社会福祉1	1	2		社会福祉の原理と政策	
	VS012	社会福祉2	1	2			
	VB011	社会起業論1	2	2			
	VB012	社会起業論2	2	2			
展開科目	VB101	キリスト教社会福祉思想史1	1		2		
	VB102	キリスト教社会福祉思想史2	1		2		
	VS101	心理学と心理的支援	1	2		ソーシャルワークの基礎と専門職	
	VS102	ソーシャルワークの基礎と専門職1	1	2			
	VS201	ソーシャルワークの基礎と専門職2	2	2			
	VS202	ソーシャルワークの理論と方法1	2	2			
	VS301	ソーシャルワークの理論と方法2	3	2			
	VS302	ソーシャルワークの理論と方法3	3	2			
	VS401	ソーシャルワークの理論と方法4	4	2			
	KH205	倫理思想史1	2		2		
	KH206	倫理思想史2	2		2		
	VB201	死生学1	2		2		
	VB202	死生学2	2		2		
	VS203	地域福祉1	2	2		地域福祉と包括的支援体制	
	VS204	地域福祉2	2	2			

区分	番号	名称	開講年次	単位数		読替科目	備考
				必修	選択		
展開科目	VS205	高齢者福祉	2	2			
	VS206	障害者福祉	2	2			
	VS207	児童・家庭福祉	2	2			
	VS208	医学概論	2	2			
	VS209	保健医療と福祉	2	2			
	VS303	生命倫理学1	3		2		
	VS304	生命倫理学2	3		2		
	VS305	社会福祉調査の基礎	3	2			
	VS306	社会保障1	3	2			
	VS307	社会保障2	3	2			
	VS308	貧困に対する支援	3	2			
	VS309	福祉サービスの組織と経営	3	2			
	VS310	刑事司法と福祉	3	2			
	VS311	権利擁護を支える法制度	3	2			
	VB301	非営利組織論1	3		2		
	VB302	非営利組織論2	3		2		
	VB013	まちづくり論1	3		2		
	VB014	まちづくり論2	3		2		
演習科目	KW301	国際人権論1	3		2		
	KW302	国際人権論2	3		2		
	KW307	平和学1	3		2		
	KW308	平和学2	3		2		
	VV501	入門演習	1	2			
専門技術 演習科目	VV502	ソーシャルマネジメント演習1	2	2			
	VV503	ソーシャルマネジメント演習2	2	2			
	VV504	ソーシャルマネジメント演習3	3	2			
	VV505	ソーシャルマネジメント演習4	3	2			
	VV506	ソーシャルマネジメント演習5	4		2		
	VV507	ソーシャルマネジメント演習6	4		2		
	VS501	ソーシャルワーク演習1	2	2		ソーシャルワーク演習 ソーシャルワーク演習 (専門)	他学科への開講は不可
	VS502	ソーシャルワーク演習2	2	2			他学科への開講は不可
	VS503	ソーシャルワーク演習3	3	2			他学科への開講は不可
	VS504	ソーシャルワーク演習4	3	2			他学科への開講は不可
	VS505	ソーシャルワーク演習5	4	2			他学科への開講は不可
	VV508	海外福祉研修	3		2		
	VV601	卒業論文	4		6		

更に、学科に関わりなく次のとおり必修となる。

(1) 以下の科目から4単位以上修得すること

「卒業論文(6単位)」「コミュニケーション演習5(2単位)」「コミュニケーション演習6(2単位)」「歴史学演習5(2単位)」「歴史学演習6(2単位)」「文化論演習5(2単位)」「文化論演習6(2単位)」「現代社会演習5(2単位)」「現代社会演習6(2単位)」「情報メディア演習5(2単位)」「情報メディア演習6(2単位)」「ソーシャルマネジメント演習5(2単位)」「ソーシャルマネジメント演習6(2単位)」「サービスラーニング1(卒)(2単位)」「サービスラーニング2(卒)(2単位)」「地域学研究(4単位)」

※演習、サービスラーニングについては、4年次の学びの卒業成果物を作成しまとめること。

(2) 以下の科目から2単位以上修得すること

【1年次から履修できるもの】

「地域学入門（1単位）」「インターンシップ（1～2単位）」「ボランティア（1～2単位）」「サービスラーニング（1～2単位）」「通訳実践（2単位）」「留学 異文化研究（1～16単位）」

【2年次以上で履修できるもの】

「情報メディア特論1（国内取材・研修）（2単位）」「情報メディア特論2（国内メディア研究）（2単位）」「他大学専門科目（沖縄キリスト教学院大学への留学）（1～60単位）」「情報メディアPBL1（2単位）」「情報メディアPBL2（2単位）」「歴史学フィールドワーク1（2単位）」「歴史学フィールドワーク2（2単位）」「歴史学フィールドワーク3（2単位）」「フィールド・トレーニング1（2単位）」「フィールド・トレーニング2（2単位）」「フィールド・トレーニング事前事後指導1（1単位）」「フィールド・トレーニング事前事後指導2（1単位）」「海外メディア事情（海外取材・研修）（2単位）」「海外キャリア研修（2単位）」「海外福祉研修（2単位）」

(4) 教職課程（英語文化コミュニケーション学科、国際文化学科）

区分	番号	名称	開講年次	単位数		備考	履修要件
				必修	選択		
教育の基礎的理 解に関する科目	TC101	教職入門	1	2		卒業要件単位外	教職課程履修全学生必修
	TC201	教育原理	2	2		卒業要件単位外	教職課程履修全学生必修
	TC202	発達と学習の教育心理学	2	2		卒業要件単位外	教職課程履修全学生必修
	TC203	教育制度論	2	2		卒業要件単位外	教職課程履修全学生必修
	TC301	カリキュラム論	3	2		卒業要件単位外	教職課程履修全学生必修
	TC302	特別支援教育概論	3	1		卒業要件単位外	教職課程履修全学生必修
道徳、総合的 な学習の時間 等の指導法及 び生徒指導、 教育相談等に 関する科目	TC204	特別活動論	2	2		卒業要件単位外	教職課程履修全学生必修
	TC303	生徒・進路指導論	3	2		卒業要件単位外	教職課程履修全学生必修
	TC304	道徳教育指導論	3	2		卒業要件単位外	高校の免許のみ取得希望の学生は選択可
	TC305	教育相談	3	2		卒業要件単位外	教職課程履修全学生必修
	TC306	教育の方法・技術とICTの活用	3	2		卒業要件単位外	教職課程履修全学生必修
	TC205	総合的な学習の指導法	2	1		卒業要件単位外	教職課程履修全学生必修
教育実践に 関する科目	TC501	教職実践演習	4	2		卒業要件単位外	教職課程履修全学生必修
	TC701	教育実習事前事後指導	3～4	1		卒業要件単位外	教職課程履修全学生必修
	TC702	教育実習（中・高）	4	4		卒業要件単位	中学校及び高校の免許を合せて取得希望の学生必修
	TC703	教育実習（高）	4	2		卒業要件単位	高校の免許のみ取得希望の学生は必修
教科の指導法 に関する科目	KT301	社会科・公民科教科教育法	3	2		卒業要件単位	教職課程履修全学生必修
	KT302	社会科・公民科指導法	3	2		卒業要件単位	教職課程履修全学生必修
	KT303	社会科・地理歴史科教科教育法	3	2		卒業要件単位	教職課程履修全学生必修
	KT401	社会科・地理歴史科指導法	4	2		卒業要件単位	教職課程履修全学生必修

※ 「必修」は、教職課程履修の必修科目の意味である。

(5) 社会福祉士国家試験受験資格課程（共生社会学科）

社会福祉士指定科目名	開講年次	単位数		番号	本学読替授業科目名	備考
		必修	選択			
医学概論	2	2				
心理学と心理的支援	1	2				
社会学と社会システム	1	4			社会学 1・2	
社会福祉の原理と政策	1	4			社会福祉 1・2	
社会福祉調査の基礎	3	2				
ソーシャルワークの基盤と専門職	1	2			ソーシャルワークの基盤と専門職 1	
ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)	2	2			ソーシャルワークの基盤と専門職 2	
ソーシャルワークの理論と方法	2	4			ソーシャルワークの理論と方法 1・2	
ソーシャルワークの理論と方法(専門)	3・4	4			ソーシャルワークの理論と方法 3・4	
地域福祉と包括的支援体制	2	4			地域福祉 1・2	
福祉サービスの組織と経営	3	2				
社会保障	3	4			社会保障 1・2	
高齢者福祉	2	4				
障害者福祉	2	4				
児童・家庭福祉	2	2				
貧困に対する支援	3	2				
保健医療と福祉	2	2				
権利擁護を支える法制度	3	2				
刑事司法と福祉	3	2				
ソーシャルワーク演習	2	2			ソーシャルワーク演習 1	30時間
ソーシャルワーク演習(専門)	2・3・4	8			ソーシャルワーク演習 2・3・4・5	120時間
ソーシャルワーク実習指導	2・3・4	4		SW701, SW702, SW703, SW704	ソーシャルワーク実習指導 1・2・3・4	90時間 卒業要件単位に含めない
ソーシャルワーク実習	3・4	6		SW705, SW706, SW709	ソーシャルワーク実習 1・2・3	240時間 卒業要件単位に含めない
	4	2	SW707		特別実習 A	卒業要件単位に含めない
	4	1	SW708		特別実習 B	卒業要件単位に含めない
	3	2	SW301		国家試験対策講座 1	卒業要件単位に含めない
	4	2	SW401		国家試験対策講座 2	卒業要件単位に含めない
	4	1	SW402		国家試験対策講座 3	卒業要件単位に含めない
	4	2	SW403		国家試験対策講座 4	卒業要件単位に含めない

(6) 児童厚生二級指導員資格課程（共生社会学科 ソーシャルワーク・コース） 他学科へ開講不可

児童厚生員資格課程	開講年次	単位数		番号	本学読替授業科目名	備考
		必修	選択			
児童館・放課後児童クラブの機能と運営	2	2		CW201		卒業要件単位に含めない
児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法 I	2	2		CW202		卒業要件単位に含めない
児童厚生員・児童館実習指導 I	2	1		CW701		卒業要件単位に含めない
児童館実習 I	2	2		CW702		卒業要件単位に含めない

(7) エクステンション科目

区分	番号	名称	開講年次	単位数		備考
				必修	選択	
エクステンション科目	XA008	新約聖書の世界 3	1	2		
	XA017	キリスト教音楽 1	1	1		
	XA018	キリスト教音楽 2	1	1		
	XA019	キリスト教音楽 3	2	1		
	XA020	キリスト教音楽 4	2	1		
	XA021	キリスト教音楽 5	3	1		
	XA022	キリスト教音楽 6	3	1		
	XA023	キリスト教音楽 7	4	1		
	XA024	キリスト教音楽 8	4	1		
	XE002	日本語入門 A	1	2		
	XE004	日本語入門 B	1	4		
	XE006	日本語入門 C	1	2		
	XE008	日本語入門 D	1	4		
	XE010	日本語入門 E	1	4		
	XE019	日本語入門 F	1	4		
	XE020	日本語入門 G	1	4		
	XE021	日本語入門 H	1	4		
	XE022	日本語入門 I	1	4		
	XE023	日本語入門 J	1	4		
	XE024	日本語入門 K	1	2		
	XE025	日本語入門 L	1	2		
	XE011	イタリア語入門 1	1	2		
	XE012	イタリア語入門 2	1	2		
	XE013	イタリア語初級 1	1	2		
	XE014	イタリア語初級 2	1	2		
	XE015	コリア語入門 1	1	2		
	XE016	コリア語入門 2	1	2		
	XE017	コリア語初級 1	1	2		
	XE018	コリア語初級 2	1	2		
	XE027	検定試験準備コース(中国語)	1	2		
	XG001	教養スペシャル・トピックスA	1	1		
	XG002	教養スペシャル・トピックスB	1	1		
	XG003	教養スペシャル・トピックスC	1	1		
	XG004	教養スペシャル・トピックスD	1	1		
	XG005	教養スペシャル・トピックスE	1	2		
	XG006	教養スペシャル・トピックスF	1	2		
	XG007	留学 異文化研究	1	1~16		
	XG008	私たちの暮らしと行政	1	2		
	XG009	私たちの暮らしと労働法制	3	1		
	XG010	サイバーセキュリティ入門	1	1		
	XG023	SPI対策 1	3	2		
	XG024	SPI対策 2	3	2		
	XG025	ビジネスマナー講座(秘書検定対策)1	2	2		
	XG026	ビジネスマナー講座(秘書検定対策)2	2	2		

敬和学園大学ネットワーク委員会規程

〔2021年1月6日
制 定〕

最新改正 2025年2月26日

(目的)

第1条 この規程は、ネットワーク委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関する事項を定める。

(構成)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって構成する。

(1) 委員長

(2) 委員（学長が指名した教職員）

(任期)

第3条 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置く。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長は、あらかじめ指名した委員に議長を委譲することができる。ただし、議長の判断に関する責任は、委員長がこれを負う。

(運営)

第5条 委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ、議事を行うことができない。

2 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(審議事項)

第6条 委員会は、次の事項について審議する。

(1) 大学の情報機器及びネットワーク環境の整備に関する事項

(2) ICTを活用した教育内容の改善のための研修会の立案・実施に関する事項

(3) 数理・データサイエンス AI 教育プログラムに関する事項

(4) その他委員会が必要とする事項

(委員以外の者の出席)

第7条 委員長は、必要があると認めたときは、委員以外のものを会議に出席させ、意見を聞くことができる。

(事務)

第8条 委員会の事務は、教務課が担当する。

(規程の改正)

第9条 この規程の改正は、委員会、教授会の議を経て、学長が決定する。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

附 則

この規程は、2021年1月6日から施行する。

附 則（2025年2月26日）

この規程は、2025年2月26日から施行する。

敬和学園大学自己点検・評価委員会規程

〔2020年1月8日
制定〕

最新改正 2023年6月7日

(趣旨)

第1条 本規程は、敬和学園大学学則(平成2年12月21日認可)第1条の2第2項の規定に基づき、自ら点検及び評価を行うため、教学マネージメント委員会の下に、自己点検・評価委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(委員会の構成)

第2条 委員会は、以下の委員で構成する。

- (1) 副学長、学長補佐
 - (2) 人文社会科学研究所長
 - (3) 事務局長
 - (4) その他、学長が必要と認めた者
- 2 委員会に委員長を置く。委員長は、学長が指名する。
- 3 委員長は必要に応じて、委員会の議を経て、委員以外の者を出席させることができる。

(委員の任期)

第3条 委員の任期は、それぞれの役職にある期間とする。ただし、前条第1項第3号の任期については、学長が定める期間とする。

(委員長等)

第4条 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

- 2 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

(委員会の任務)

第5条 委員会は、以下のとおり点検と評価を行い、その結果を教学マネージメント委員会に報告・助言する。

- (1) 毎年度末に教員が作成した「教育活動・研究活動・社会貢献活動報告書」を点検・評価する。
ただし、研究活動の点検評価については、人文社会科学研究所に委託し、評価結果の報告を受け、検証する。
- (2) 每年度末に委員会、学科、部署が作成した「中長期計画(ロードマップ)成果達成度評価報告書」を点検・評価する。
- (3) 第三者評価及び認証評価を受けるための「自己点検・評価報告書」を作成する。

(事務)

第6条 委員会に関する事務は、事務局長が指名する者が担当する。

(規程の改廃)

第7条 この規程の改廃は、委員会の議を経て教授会で決定する。

附 則

- 1 この規程は、2020年1月8日から施行する。
- 2 敬和学園大学自己点検・評価規程(1994年4月1日制定)は廃止する。

附 則(2023年2月8日)

この規程は、2023年2月8日から施行する。

附 則(2023年6月7日)

この規程は、2023年6月7日から施行する。

敬和学園大学内部質保証に関する規程

（2020年1月8日）
制定

（趣旨・目的）

第1条 敬和学園大学（以下「本学」という。）は、建学の精神並びに教育理念・目的に基づく教育研究活動等を行うにあたり PDCA サイクル等の方法を適切に機能させることによって、教育の質の向上を図り、教育の質の水準が適切であることを、自らの責任で恒常的・継続的に社会に説明・証明する。

2 本学の前項の過程を内部質保証という。

3 この規程は、本学の内部質保証の推進及び自己・点検評価について、必要な事項を定めるものとする。

（内部質保証の推進体制）

第2条 本学の内部質保証を推進するための権限と責任を教学マネージメント委員会に置く。

2 教学マネージメント委員会の下に自己点検・評価委員会を置く。

3 毎年、「中長期計画(ロードマップ) 成果達成度評価報告書」により監事の評価を受ける。

4 7年毎に認証評価機関の評価を受ける。

5 認証評価機関に認証された年から5年経過した年に第三者評価を受ける。

6 教学マネージメント委員会及び自己点検・評価委員会に関する事項は、別に定める。

（内部質保証の推進方法）

第3条 本学は、内部質保証を推進するため、次の事項を設定する。

(1) 建学の精神並びに教育理念・目的に基づく、学部及び学科の人材育成の目的

(2) 前号の教育目的に基づく、学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）及び入学者の受け入れに関する方針（アドミッションポリシー）

(3) 学修成果の評価の方針（アセスメントポリシー）

(4) 大学の諸活動に係る次の方針

ア 内部質保証の方針

イ 大学が求める教員像

ウ 教員組織の編成に関する方針

エ 学生支援に関する方針

オ 教育研究活動等環境の整備に関する方針

カ 社会連携・社会貢献に関する方針

キ 大学運営に関する方針

ク その他学長が必要と認める事項

(5) 大学の諸活動に係る中長期計画

(6) 前号に基づく短期的な具体計画（ロードマップ）

2 学長は、教学マネージメント委員会を通して、内部質保証に係る取組を支援し、取組状況の確認及び取組結果の集約を行い、これらを検証する。

3 自己点検・評価委員会は、点検・評価の結果を教学マネージメント委員会に報告・助言する。

4 教学マネージメント委員会は、自己点検・評価委員会及び監事からの報告・助言を受けて、改善の必要があると認めた場合には、学長の名において適切な措置を講じ、教授会に報告する。

5 教員、委員会、学科及び部署は、自己点検・評価の結果により教学マネージメント委員会から受け

た指摘事項について、状況の改善に努める。

- 6 教学マネージメント委員会は、第三者評価及び認証評価から受けた指摘事項について、学長の名において適切な措置を講ずる。
- 7 学長は、教学マネージメント委員会の活動状況について、改善の必要があると認めた場合、適切な措置を講ずる。

(教学マネージメント委員会の任務)

第4条 教学マネージメント委員会は、本学の内部質保証を推進するため、次の事項を任務とする。

- (1) 大学の教育目的の確認
- (2) 第3条第1項第2号から第6号に規定するポリシー、方針、計画の設定
- (3) 教育研究組織の設置状況、大学運営及び内部質保証システムの適切性の点検・評価
- (4) 自己点検・評価活動の統括
- (5) 自己点検・評価活動の確認・検証及び検証内容に基づく改善策又は向上策の立案
- (6) 前号に規定する施策及び内部質保証状況の学長への報告
- (7) 第三者評価及び認証評価の受審に関する事項
- (8) その他必要な事項

(自己点検・評価項目)

第5条 自己点検・評価の項目については、大学基準協会の評価項目に準じ、それに本学独自の評価項目を加えることができる。

- 2 点検評価の項目については、教学マネージメント委員会が決定する。

(評価結果の公表)

第6条 本学は、自己点検・評価報告書及び認証評価の結果並びに本学の基本情報を本学ホームページ上で公開する。

(規程の改廃)

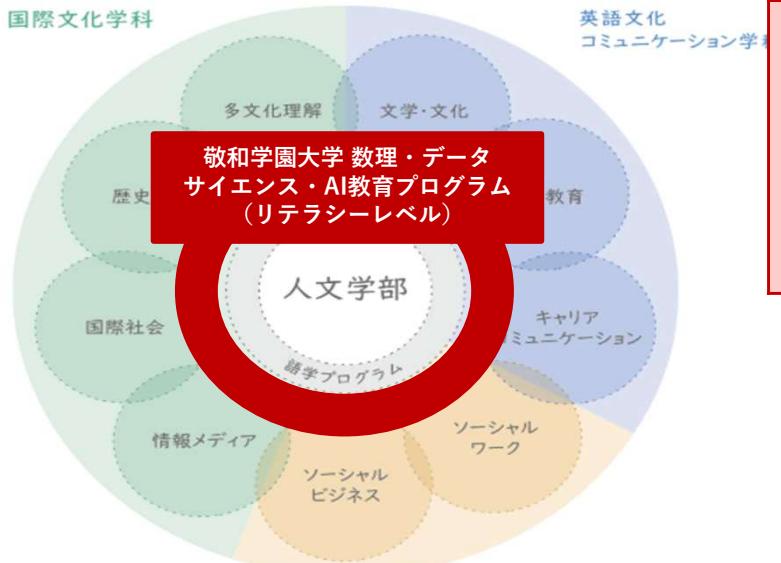
第7条 この規程の改廃は、教学マネージメント委員会の議を経て教授会で決定する。

附 則

この規程は、2020年1月8日から施行する。

大学等名	敬和学園大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	敬和学園大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム	申請年度	令和 7 年度

プログラムの目的 身に着けられる能力	<ul style="list-style-type: none"> ・AIの正しい知識を持ち、社会における変化を柔軟に受け入れることができる。 ・基礎的な統計知識を身につけ、「データを正しく読む力」と「データを正確に伝える力」を身につけることができる。 ・データ・AIを活用するうえで求められるモラルや倫理を理解し、個人のデータを守るうえで注意事項を理解できる。
履修条件	<p>以下の 2 科目の単位を修得すること 対象：全学科・全コース</p> <p>○データサイエンス入門</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通基礎科目(全学科・全コース) 2単位 2年次開講科目 ・前期 15回の講義および演習 選択科目 <p>➢ 社会で起きている変化、データ・AIの活用領域、最新動向など</p> <p>➢ 実データ・実課題を用いた演習、データを読む説明する、扱う</p> <p>➢ データ・AIの活用に当たっての様々な留意事項</p>



敬和学園大学では、特定の分野に片寄ることなく、さまざまな学問を横断して学ぶ「リベラルアーツ」教育を行っています。その共通基礎科目として**敬和学園大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)**を設置しました。全学科・全コースの学生が、視野を広げ、教養を深め、時代や体制に流されない価値観を学ぶことができます。

「敬和学園大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」(申請中)
紹介ホームページ <https://www.keiwa-c.ac.jp/academic/datascience/>

42

品質向上	敬和学園大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)の品質向上のために			
	<ul style="list-style-type: none"> ・点検・評価は、ネットワーク委員会、自己点検・評価委員会、教学マネジメント委員会などあらゆる学内組織を活用し、講義内容の是正、学生習熟度の把握、改善につなげるPDCAサイクルを管理徹底していく。 ・敬和学園大学 情報カリキュラムに関するストラクチャーを基準とし、常にコンソーシアムの情報を取り入れアップデートを行う。 			

	Step1	Step2	Step3	Step4
情報カリキュラム ストラクチャー				
基礎力	・コンピューター・リテラシー	・ITパスポート取得講座 ・MOS講座		
分析力		・データサイエンス入門	・AIリテラシー	
制作力 発信力		・Web技術 ・スマートアプリケーション	・デジタルコンテンツ制作	
応用力 課題解決力		・県警サイバー対策講座	・著作権法 ・PBL	・PBL

敬和学園大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル) 実施プログラム
敬和学園大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル) + 想定プログラム